

OKADA-ROOM Vol.10

アトリエ移設記念展「はじまりはここから—岡田三郎助と女性画家たち—」連動展示

～画家がいる場所—岡田三郎助・アトリエから世界へ～
会期 2018年3月17日(土)～7月16日(月祝)

佐賀県立美術館は開館以来、明治から昭和初期にかけて活躍した佐賀県出身の日本近代洋画の巨匠、岡田三郎助（おかだ・さぶろうすけ、1869～1939）の画業と人物を顕彰してきました。館内の常設展示室「OKADA-ROOM」では、数か月ごとに展示替えを行いながら岡田作品を中心に館収蔵の近代洋画の優品を紹介し、ご来館の皆様にご好評をいただいているところです。

平成29（2018）年4月1日、東京渋谷区恵比寿に残されていた岡田三郎助のアトリエが、佐賀市に移築されます。県立美術館ではそれを記念し、「はじまりはここから—岡田三郎助と女性画家たち—」（美術館2号展示室、4月1日～5月20日まで・有料）が開催されますが、本展示もそれと連動した内容となります。

「画家がいる場所—岡田三郎助・アトリエから世界へ」と題して、アトリエをはじめ、岡田が作品を制作した場所に着目し、彼の足跡をたどるものです。

なお、岡田三郎助の作品は、肥前佐賀幕末維新博特別展「温故維新 美・技のSAGA」（博物館及び美術館、3月17日～5月13日・有料）にも展示されます。どうぞあわせて御観覧ください。

出品目録

No.	作品名・資料名	英訳	作者名	制作年	寸法（本紙・cm）	材質	所蔵
1	大磯風景	Scene of Oiso	岡田三郎助	1894（明治27）	35.9×25.3	油彩・板	館蔵
ターニングポイントの時期に描かれた作品 神奈川県の大磯に取材した作品。岡田は本作を制作した1894（明治27）年に初めて黒田清輝を知り、その明るい画風に大きく影響されるが、本作はその感化を受ける以前の作例といえる。 右下の書き入れから、画家がのち1937（昭和12）年に文化勲章を受けたおりに、受章記念として父方の石尾家へ贈呈した作品であると考えられ、とりわけ思い入れのあった一枚と思われる。							
2	八瀬の里	Village of Yase	岡田三郎助	明治39（1906）	75.9×56.6	パステル・紙	館蔵
パステルで描かれた山村の秋 八瀬とは京都・比叡山の麓に位置する小村の名前。この年の春、岡田はフランスで知り合った洋画家の小林千古と京都に遊び、共に制作に励んだ。牛に車を引かせる農夫の奥にそびえる山が比叡山であろうか。山の量感がパステルで的確に表現されている。 パステルの柔らかい調子を岡田は好み、留学中からたびたび用いていた。							
3	庭	Corner of a Garden	岡田三郎助	1919（大正8）	45.5×33.3	油彩・カンヴァス	館蔵
燃えるような色彩で、身近な自然を描く ポスト印象派を思わせる荒々しい筆致と、赤や黄色の大胆な原色の遣い方が特徴的な作品。右に白いベンチが見え、自宅のアトリエの庭を描いたと考えられる。 岡田はこの前年に、壁画制作のため台湾に滞在していた。南国の陽光が、本作に影響を与えたかもしれない。「優美」「典雅」と評されることが多い岡田の、別の一面を見ることが出来る作例である。							

No.	作品名・資料名	英訳	作者名	制作年	寸法(本紙・cm)	材質	所蔵
4	風景	Landscape	岡田三郎助	1919(大正8)	53.3×33.5	油彩・カンヴァス	館蔵

躍動する筆と色彩

描かれた場所は不明だが、アトリエの近くであろうか。奥行きのある堅実な構図、写実性をふまえながらも速度感のあるタッチが印象的な小品である。なお大正8年、アトリエ内で本作を制作する岡田の姿が撮影された写真が残されている。

5	富士山(三保にて)	Mt.Fuji (view from Miho)	岡田三郎助	1920(大正9)	137.3×197.5	油彩・カンヴァス	館蔵
---	-----------	-----------------------------	-------	-----------	-------------	----------	----

大画面に広がる富士の偉容

細くたなびく雲と、朝日に照らされた山頂の雪が美しい。富士山の姿は古くから描かれてきたが、近代においては、〈日本一国家〉の象徴としての役割を担うようになった。なお、岡田とともに白馬会に参加し、東京美術学校で教鞭をとった洋画家^{es}、和田英作の《朝陽富士図》(1917年、旧御物)は、本作とほぼ同一の構図である。

6	伊豆山風景	Landscape of Izusan	岡田三郎助	1935(昭和10)	65.1×100.1	油彩・カンヴァス	館蔵
---	-------	------------------------	-------	------------	------------	----------	----

山に抱かれるように広がる海

1935(昭和10)年、岡田は伊豆・熱海を訪れ、本作や《涼々園にて》などの作品を描いた。森の陰影の描写は湾の稜線を際立たせ、穏やかに打ち寄せる海面との間にコントラストを生み出している。熱海には1895(明治28)年から鉄道が開通し、東京からほど近い景勝地として、多くの文化人や観光客を集めていた。

7	富士山	Mt.Fuji	岡田三郎助	1917(大正6)頃	41.0×60.5	油彩・カンヴァス	佐賀県蔵
---	-----	---------	-------	------------	-----------	----------	------

闇に沈む小さな富士山

左の《富士山(三保にて)》とほぼ同じ構図だが、描かれた時期は本作の方が早い。山肌は暗く描かれており、《富士山(三保にて)》とは異なる時間帯の富士山の様子を描いていると考えられる。

8	桃の林 (大石田横山村)	Peach Garden (Yokoyama-mura, Oishida)	岡田三郎助	1917(大正6)	50.0×60.6	油彩・カンヴァス	館蔵
---	-----------------	---	-------	-----------	-----------	----------	----

豊かな果樹園への讃歌

山形県北村山郡横山村(現在の太石田町)には、りんごや桃、桜、すもも、梨の木が茂る広大な果樹園があった。知人にここを紹介された岡田はすっかり気に入り、本作を描いた。霞がかった空に向かって枝を伸ばす桃の木々が、リズムミカルなタッチの厚塗りで見事に表現され、みなぎる生命力を見る人に伝える。

9	丹霞郷	Tanka-kyo	岡田三郎助	1933(昭和8)	53×65.1	油彩・カンヴァス	個人蔵 (当館寄託)
---	-----	-----------	-------	-----------	---------	----------	---------------

昭和8(1933)年5月、岡田をはじめとする10人の画家、美術評論家達が長野県へ招かれた。彼らは長野市へ向かう途中、中郷村平出(現飯綱町平出)を通過した際に桃の花が美しい果樹園を見出し、賛美して「丹霞郷」と名付けた。岡田はしばしば長野を訪れ写生を行い、丹霞郷へは昭和12年まで5回ほど訪れたという。

10	子持山	Mt.Komochi	岡田三郎助	1934(昭和9)	23.8×33.0	油彩・カンヴァス ボード	館蔵
----	-----	------------	-------	-----------	-----------	-----------------	----

はなむけに贈られた愛すべき小品

子持山は群馬県沼田市の南西に位置し、景勝地として名高い。本作は岡田宅の近所に在住していた西郷先生なる人物が転居する際、岡田が餞別として贈ったものだという。この年の12月、岡田は帝室技芸員の一人に任ぜられる栄誉を得る。66歳のことであった。

No.	作品名・資料名	英訳	作者名	制作年	寸法(本紙・cm)	材質	所蔵
11	ローマの古橋	Old Bridge in Rome	岡田三郎助	1930(昭和5)	22.0×27.0	油彩・カンヴァスボード	館蔵
<p>薄暮に浮かび上がる古代ローマの橋 古代ローマ時代に建設されたローマ郊外の橋、ノメンターノ橋(Ponte Nomentano、現在の橋は19世紀の再建)を描いたと思われる作品。旅行中に立ち寄ったのであろう。空を大きく切り取り、暗めの諧調の中に青色を配すことで、この小さな橋に積み重なった年月までも感じさせる、静謐で抒情的な画面に仕上がっている。</p>							
12	フローレンス風景	Landscape of Florence	岡田三郎助	1930(昭和5)	22.0×28.1	岩絵具・絹	館蔵
<p>岩絵具で描かれた色鮮やかなフィレンツェ 旅に同行した画家、大橋了介の回想によると、岡田はアルノ川に面したホテルの窓から、現在も観光地として名高いこのヴェッキオ橋を描いたという。建物同士の重なり描写やカラフルな色彩が際立ち、軽やかかつ装飾的な画面に仕上がっている。フィレンツェの街並みのリズムの面白さに、岡田は惹きつけられたようだ。</p>							
13	コローの池	Corot's Pond	岡田三郎助	1930(昭和5)頃	33.0×24.0	油彩・カンヴァス	個人蔵 (当館寄託)
<p>風景画の大先達、コローへのオマージュ 岡田にさかのぼること約100年前、バルビゾン派の風景画家、カミーユ・コロー(1796-1875)はパリ近郊のヴィル＝ダヴレーに別荘を構え、湖を題材に多くの作品を制作した。ヨーロッパでの旅の道中、岡田はこの湖を訪れ、コローの愛したこの地で制作を行った。柔らかな配色とうねる筆致が特徴的である。</p>							
14	裸婦(デッサン)	Study for Bust Nude	岡田三郎助	昭和11(1936)	34.0×32.0	コンテ・紙	館蔵
15	婦人半身像(下絵)	Woman's Half Length Portrait (study)	岡田三郎助	昭和11(1936)	62.0×47.5	パステル・紙	館蔵
<p>昭和期の名作《婦人半身像》(東京国立近代美術館蔵)の、パステルによる下絵。曲げた腕や、顎のあたりの陰影など、下絵ながら丹念に描かれている。また、本作の画面右手には左手の親指のみが描かれていることから、より優美な指の表現を検討していたことが分かる。</p>							
16	坐裸婦	Seated Nude	岡田三郎助	制作年不詳	58.7×42.6	コンテ・紙	館蔵

佐賀県立美術館

〒840-0041 佐賀県佐賀市城内1-15-23
 TEL. 0952-24-3947 FAX. 0952-25-7006
 E-mail. hakubi@pref.saga.lg.jp Web. <http://saga-museum.jp/museum/>